

○ 新しい資本主義の下、食料安全保障の強化、スマート農林水産業等による成長産業化、農林水産物・食品の輸出促進、農林水産業のグリーン化を推進するため、以下の予算を活用し、対策を推進。

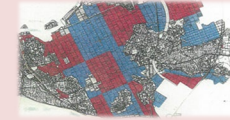
## I. 食料安全保障の強化

### (1) 食料安全保障の強化に向けた構造転換の実現

- 堆肥・下水汚泥資源の肥料利用拡大、堆肥等の広域流通、肥料原料の備蓄等により、肥料の国産化や安定供給を確保するための対策の実施
- 耕畜連携による国産飼料の供給・利用拡大、養殖飼料（魚粉）の国産化の推進
- 園芸から酪農畜産、林業、水産業まで、幅広く省エネ技術の導入加速化
- 水田を畑地化し、麦・大豆等の本作化の促進
- 輸入小麦に代わって、国内生産が可能な米粉の生産・利用の拡大支援
- 食品事業者における国産切替えなどの原材料の調達安定化の推進



ラップサイレージ



畑作の団地化



農林漁業体験機会の提供



畑作物の本作化



青刈りとうもろこし



地域における共食の場の提供



地域食文化の継承

令和 5 年度予算概算決定額：283億円  
令和 4 年度第 2 次補正予算 (1)1,642億円、(2)1,127億円  
国土交通省：30億円、内閣府：20億円

### (2) 生産資材等の価格高騰等による影響の緩和

- 肥料、配合飼料、燃料の高騰へ対応
- 国民理解醸成に向け情報発信
- 食品ロス削減・フードバンクへの支援

## II. スマート農林水産業等による成長産業化

- 環境負荷や資材の低減効果が期待できる先進的なスマート農業技術の開発・実証・産地支援
- 農林水産・食品分野におけるスタートアップ創出の強化
- 地域全体で林業・水産業の生産・流通等のデジタル化を推進する単独拠点の構築
- 林業機械の自動化・遠隔操作化、森林資源情報のデジタル化
- 産地市場・漁協からの水揚データの効率的な収集体制の強化や静寂云量の電子化



ドローン防除等の作業受託



営農管理システム



自動で丸太情報を取得するIoTハーベスタ



クラウド  
A社 B社 C社  
バイデータの共通化

令和 5 年度予算概算決定額：43億円  
令和 4 年度第 2 次補正予算：66億円

## III. 農林水産物・食品の輸出促進

- 海外需要開拓、輸出支援プラットフォームによる支援体制強化、品目団体の取組強化
- GFPを通じた産地育成・供給体制強化
- HACCP施設の整備
- 地域のお加工食品の輸出促進
- 育成者権管理機関等の取組支援等を通じた知的財産の管理・保護



輸出支援プラットフォームの立ち上げ状況



海外バイヤーとの商談

令和 5 年度予算概算決定額：109億円  
令和 4 年度第 2 次補正予算：426億円



厳密な温度管理に対応する急速冷凍庫等の導入

## IV. 農林水産業のグリーン化

- 堆肥・下水汚泥資源等の国内資源の活用による化学肥料の低減
- 化学農薬・化学肥料の使用量低減と高い生産性を両立する新品種・技術の開発
- 有機農産物の生産・需要拡大などグリーンな栽培体系への転換
- 堆肥の高品質化・広域流通の促進
- 環境保全型農業直接支払交付金による幅広い取組の推進
- 環境負荷低減の見える化などを通じた関係者の行動変容の促進、国民の理解醸成
- カーボニュートラルを見据えた森林・林業・木材産業によるグリーン成長の実現
- CO2排出量削減に対応しつつ、高性能船舶の導入や養殖生産の技術開発・調査を支援



家畜ふん堆肥



下水汚泥



ペレット堆肥



化学肥料との混合肥料



従来品種



エリートツリー

令和 5 年度予算概算決定額：121億円  
令和 4 年度第 2 次補正予算：269億円

国土交通省：30億円



ブリ人工種苗